

コレクション展「戦後80年を迎えて」

6月15日(日)まで開催中 <展示室3>



宮崎進「歌う俘虜」1960年頃 ブロンズ

戦争が終わって80年が経ちました。それは「二度と戦争を起こしてはならない」という思いに包まれた歲月でした。

現在、常設展ではコレクション展「戦後80年を迎えて」を開催しています。その中から宮崎進の作品をいくつか紹介します。

画家・宮崎進(1922-2018)は、大正11年に周南市内の御弓町に生まれました。昭和14年に日本美術学校油絵科に入学しましたが、昭和17年に召集され戦地で終戦を迎えました。その後、4年に及ぶシベリア抑留を体験しました。

帰国後、彼は画家として出発し、シベリアをテーマに多くの作品を残しました。その中には右の「Voice of Friends」のように麻布袋を板に貼り付け、その上から油絵を塗った作品もあります。シベリアの収容所で宮崎は、食料などを運ぶ麻の袋をほどいて絵を描いていたこともあり、麻布袋は、彼にとっては特別な意味を持っています。

宮崎進「Voice of Friends」1990年
麻布、油彩・合板

「版画シベリアシリーズ」の「ある朝」には、シベリアでの過酷な体験を物語る情景が描かれています。宮崎は著書『鳥のように』※の中で次のような文章を残しています。

—春が来る前に軍曹は死んだ。梁から垂れた細い体は固く冷え、虜囚たちの心^{こころ}を扶^{たす}った。何も残さなかった彼には、待ちわびる妻子があったという。—

また彼は、過酷な戦争体験だけでなく、そこで感じた自然の雄大さ、強い生命力、希望の光といったものも表現しています。「花咲く大地」には、長い冬の間大地を覆っていた厚い氷が春に溶け一斉に咲き始めた花々が描かれています。彼の地で捕虜となり死と絶望をくぐり抜けた宮崎は、その光景に生きる喜びを見いだしたのでした。

本展では、耐え難い戦争体験を生きる希望へと昇華させた宮崎進の作品とともに、画家を目指しながらも志半ばで戦死した画学生、久保克彦の作品(3ページ【常設展示 展示室3】参照)も展示しています。

ウクライナ侵攻やガザ侵攻など、現在でも世界では分断や対立が広がっています。これまでどれほど多くの命が失われ、どれほど多くの苦しみや悲しみの涙が流されたことでしょうか。いまいちど立ち止まって、戦争のない世界を考えるきっかけになればと思います。

(周南市美術博物館 学芸員 今井良枝)

※『鳥のように—シベリア 記憶の大地』宮崎進 (岩波書店)より

あわせて3ページ【常設展示】もどうぞご覧ください。

宮崎進「ある朝」1960年頃
ドライポイント(シベリアシリーズより)

宮崎進「花咲く大地」2012年 油彩、ミクストメディア、麻布・合板



第33回林忠彦賞受賞記念写真展 開催中!

「ALT」(オルト) 鶴巻 育子

観覧無料

4月26日(土)→5月11日(日)

※4月28日(月)、5月7日(水)休館

*会期中は林忠彦記念室を含む常設展も無料でご覧いただけます

びびびの美
2025年4月前半号



人は影になる。どっちを向いているかわからない。
People are shadows. I don't know which way they are facing.



徳山駅で林忠彦賞を紹介中! 駅におでかけの際は、ぜひご覧ください【5月11日(日)までの予定】

林忠彦賞 歴代受賞作品紹介パネルを展示

新幹線改札前 広場

歴代の受賞作品を紹介しています。それぞれの時代を捉えた写真とともに、林忠彦賞のあゆみをご覧ください。



南北自由通路(ぞうさんのさんぼみち)には受賞記念写真展をお知らせするタペストリーも



周南市美術博物館開館30周年記念 写真展「オードリー・ヘプバーン」

6月27日(金)~8月31日(日)

- 9時30分~17時(入館は16時30分まで)
- 月曜休館 ※ただし7月21日(月・祝)開館、翌22日(火)休館
8月11日(月・祝)開館、翌12日(火)休館

オードリー・ヘプバーン(1929~1993)は、映画初主演作「ローマの休日」でアカデミー賞主演女優賞を受賞し、その後も数々の名作映画で主演を務めた20世紀を代表する女優です。その、お茶目な妖精のような美貌はそれまでの女優のイメージを一新しました。晩年は、ユニセフ特別親善大使として精力的に活動。自分らしさを大切にされた彼女の姿は、今もなお人々を魅了し続けています。

本展では、ハリウッドで活躍したフォトグラファーらによって撮影された写真を通して、オードリーの生き生きと輝く姿を紹介します。



©Mark Shaw

観覧料

- 一般 1,200円(1,000円) ■大学生 1,000円(800円) ()内は前売および20名以上の団体
- ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

◆本展をご鑑賞の際は、常設展も無料でご覧いただけます

18歳以下
無料

LAWSON

MACHI café

フローズン
ドリンク

ストロベリー
フラッパ

キャラメル
フラッパ

各380円(税込)

LAWSON 徳山駅前店 0834 32-8363

※画像はイメージです。

美博クイズ~!(136) もんだい

うつのみやびじゅつかん とちぎけん
宇都宮美術館(栃木県)で「まど・みちおのうちゅう」展が6/29まで開催中です。2015年度に美博で企画し開催したあと全国各地で開催されています。今回で何館目でしょう。

ヒント ホームページ
「まど・みちお 100の世界」をみてください



周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
 ※18歳以下および70歳以上無料 ※林忠彦受賞記念写真展の会期中(4/26~5/11)は常設展無料
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日 ※ただし、5/5・5/6開館、5/7休館

展示室 3 コレクション展示室

コレクション展「戦後80年を迎えて」 6/15(日)まで



久保克彦「自画像」水彩・紙

本展では宮崎進のほかに、画家を目指しながらも志半ばで戦死した画学生、久保克彦の作品も展示しています。

久保は大正7年、熊本郡佐賀村(現在の平生町)佐合島に生まれました。父は俳人の久保白船です。昭和13年に東京美術学校(現在の東京藝術大学)工芸科図案部に入学しました。その後戦争のため繰り上げ卒業し、出征。昭和19年に中国で戦死しました。展示室には彼の描いたデザイン画をいくつか展示しています。戦争さえなければ、その才能は間違いなく花開いていたことでしょう。



久保克彦「きんぎょをつばき」ポスターカラー・紙

展示室 4 林忠彦記念室

戦時下の日本 6/15(日)まで

戦後80年にちなみ、「戦時下の日本」シリーズを展示しています。

戦時中、成人の男性は徴兵されたため深刻な人手不足でした。労働力不足を補うため、独身の女性が軍需工場や鉱山などに動員されました。さらに、子どもたちも勤労奉仕に駆り出されます。林は、みかんの収穫や留守家庭の庭の清掃など、子どもや学生たちが働く姿も撮影しています。



びびびの美
2025年3月
後半号



「ミカンの収穫を手伝う早川国民学校児童」撮影 林忠彦

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は6/29(日)まで

まどさんは、身近にあるクレヨン、水彩絵の具、フェルトペンなどを使って抽象画を描きました。

この作品では、紙の上にクレヨン、水彩絵の具、またクレヨンと塗り重ねています。四角に囲まれた部分の内側を見ると、ガラスペンのような細い線が無数に描かれています。

まどさん独自の技法です。ぜひご注目ください。



「忘れられた方形」1961年8月17日
クレヨン、水彩、フェルトペン、削り、ひっかき・紙

徳山の歴史 特設コーナー

「徳山空襲と戦後の復興」

5/1(木)~8/31(日)

徳山は1945年(昭和20)の5月と7月の2度にわたり空襲をうけています。

5月10日には海軍燃料廠が爆撃を受け、7月27日にはまちに焼夷弾が落とされ、市街地の90%が一夜のうちに焼け野原となりました。

戦後80年を迎えた今年、徳山空襲と戦後の復興のあゆみを写真などから振り返ります。



周南市美術博物館 その他の5月の展覧会

9:30~17:00(入館は16:30まで)

観覧無料

- 第17回書苑展5/31(土)~6/1(日)(5/31は13:00~、最終日は16:00終了)【展示室1】

美博クイズ~! <136> こたえ

宇都宮美術館で10館目だよ。

これまでに、宮城県、高知県、兵庫県、静岡県、福岡県、岡山県、長野県、富山県、島根県で開催されたよ。(開催順)全国各地でまどさんの作品を紹介しているんだ。

Music, Drama, Dance, etc. 花島 に広告を
かるちゃあ通信 出しませんか?

発行部数 毎月8,000部
詳細は、周南市文化会館 (tel:0834-22-8787) までお問い合わせください。

ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

第33回林忠彦賞受賞記念写真展
鶴巻育子「ALT(オルト)」 ~5/11(日)コレクション展「戦後80年を迎えて」
~6/15(日)

第17回書苑展 5/31(土)~6/1(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

企画展 林忠彦写真展
「世界と日本のこころ旅(世界編)」
尾崎正章常設展「白い叙情」 ~5/25(日)

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

企画展「生誕300年記念 毛利重就
-防府を愛でた長州藩主-」 ~5/26(月)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

カナレットとヴェネツィアの輝き
~6/22(日)

萩

山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400

特別展 池田蕉園と輝方
一夢見る美人画 ~6/1(日)コレクション展
「日本人を魅了した韓国のやきもの」
~6/22(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

世界遺産登録10周年記念企画展
「シン・萩の世界遺産」 ~7/6(日)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

香月泰男のデッサン・素描展 ~5/26(月)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

所蔵品展No.167
新収蔵作品紹介/
美術館友の会会員が選ぶ「みたい!」
下美コレクション ~5/25(日)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

企画展
「西国一の大港を支えた商人たち」
~6/29(日)

~ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館 ~

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

- 9時30分~17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料: 一般200円(160円) 学生等100円(80円)
()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日: 月曜日 ※ただし5/5・5/6開館、5/7休館
※展示準備等のため、5/26~6/20休館



企画展

5月25日(日)まで開催中

「世界と日本のこころ旅」
林忠彦写真展
世界編



オランダ(ネス・アンティル)

※国名(地名)は「林忠彦写真集 異郷好日」(1989年)をもとにしています。

小展示室

周南市出身の写真家・林忠彦は旅好きとして知られ、50ヶ国以上の国々を巡り、世界各地の風景を撮影しました。みなさんも林の写真とともに、世界を旅してみませんか。



展示風景

常設展 同時開催

尾崎正章常設展「白い叙情」

大・中展示室

尾崎正章はふるさと周南を中心に、人物や港の風景、身近な品々などをモチーフに絵を描きました。昭和40年代から50年代にかけては画面全体が白く霞がかかった作品が多くなり、「白い叙情」と評されるようになります。今回は尾崎ならではの白で包まれた世界をご覧ください。



展示風景

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。http://s-bunka.jp/kyoubi/



思います。

(西林)

先日、時間が経つと忘れてしまおうので早めにしようと思うけれど、取り掛かるまでにちよつと気が合っていること」を

しました。

それは、撮りためていた写真を選んで印刷することです。あれこれ見比べて、A4サイズの紙に配置を考え、コメントをちよつと入れる。撮影した時のことを思い出しながら作業は、なかなか楽しいです。

しかし、膨大な数の写真から選ぶのは一苦労で、似たような写真を前に、だんだんと疲れてきます。吟味してシャッターを押したつもりでも気軽に撮って溜まってしまいます。

完成した印刷物を手に取ると嬉しく、以前自分や家族が作ったものを見返しても、とても楽しい気持ちになります。写真の横に書いてあるコメントを読んで、そういえばあの時こう感じたなと思いついたり、なぜこの写真を選んだのかとツッコミを入れたり。少し気合が要るのだけれど、せっかく撮った写真なので、はりきります。

さて、美術館では、5月11日まで「第33回林忠彦賞受賞記念写真展」、6月には「写真展 オードリー・ヘプバーン」が開催されます。懐かしい気持ち、新たな発見、色々な考えや感想を持ちながら、展覧会を楽しんでいただけたら嬉しく

ミニコラム
ガス燈

先日、時間が経つと忘れてしまおうので早めにしようと思うけれど、取り掛かるまでにちよつと気が合っていること」を